

第 34 回生活科学系コンソーシアム会議議事録

日時 2022 年 3 月 21 日 (祝・月) 15:00~16:30

方法 ビデオ会議 (Zoom)

出席者 (敬称略 あいうえお順)

構成学会 11 学会 12 名

国際服飾学会	安蔵 裕子 (連絡担当者)
生活経済学会	倉田 あゆ子 (連絡担当者)
日本衣服学会	加藤 登志子 (連絡担当者)
日本家政学会	藤井 恵子 (連絡担当者)
日本家庭科教育学会	綿引 伴子 (連絡担当者)
日本健康心理学会	遠藤 公久 (連絡担当者)
日本消費者教育学会	東 珠実 (会長)、柿野 成美 (連絡担当者)
日本繊維製品消費科学会	大矢 勝 (連絡担当者)
日本調理科学会	名倉 秀子 (連絡担当者)
日本保育学会	波多野 名奈 (連絡担当者)
服飾文化学会	大網 美代子 (連絡担当者)

家政学分科会委員 10 名

阿部栄子 小川宣子 工藤由貴子 重川純子 守隨香
杉山久仁子 鈴木恵美子 多屋淑子 都築和代 宮野道雄

欠席者

構成学会 5 学会

日本健康医学会 日本健康科学学会 日本食生活学会 日本食品衛生学会
日本食品科学工学会

家政学分科会委員 1 名

池田彩子

配布資料

- 資料 1. 出席者名簿
- 資料 2. 生活科学系コンソーシアム第 33 回議事録 (案)
- 資料 3. 第 13 回生活科学系博士課程論文発表会
- 資料 4. 2021 年度活動報告 (案)
- 資料 5. 2021 年度決算 (案)
- 資料 6. 2022 年度活動計画 (案)
- 資料 7. 2022 年度予算 (案)

資料 8. 第 11 回シンポジウムについて

資料 9. 公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」第三回
「Disability Inclusive Academia : 障害のある人々の視点は科学をどう変えるか」

資料 10. 公開シンポジウム「中等教育からはじめよう！ジェンダー平等－誰一人取り残さない、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざして－」

議題

(1) 生活科学系コンソーシアム第 33 回会議議事録（案）の承認

杉山会長より議事録案（資料 2）が説明され、第 33 回会議議事録として承認された。

(2) 第 13 回生活科学系博士課程論文発表会について

杉山会長より、本日、2022 年 3 月 21 日に第 13 回生活科学系博士課程論文発表会が開催され、合計 12 本の発表があったとの報告があった（資料 3）。

都築委員より各構成学会の協力に対する謝辞があった。宮野委員より、発表者から別の発表に対する質問が出たことはとても良かった、発表者同士の質問を歓迎する工夫を積極的に検討してはどうかという意見があった。

杉山会長から、オンラインで今後も実施する場合には参加者同士の交流を促すような工夫を検討したいとの発言があった。

(3) 第 15 回生活科学系コンソーシアム総会について

杉山会長より、第 15 回総会は 5 月 22 日（日）17 時から開催するとの確認があった。

(4) 2021 年度活動報告及び決算案について

杉山会長より、資料 4 にそって、2021 年度の活動について 1、会議、2、総会、3、シンポジウム、4、博士課程論文発表会の順に説明があった。「5.その他」の後援名義使用学会に、日本消費者教育学会を加筆する旨の指摘があり、加筆修正することを確認した。

2021 年度決算案については、資料 5 にそって鈴木会計担当委員より説明された。

博士課程論文発表会経費に、A, B 各室 1 名ずつのアルバイト代を追加することが確認された。

活動報告案、決算報告案いずれも、指摘について修正の後、総会にはかることとなった。

(5) 2022 年度活動計画及び予算案

杉山会長より、資料 6 にそって 1. 会議、2. 総会、3. シンポジウム、4. 博士課程論文発表会の順に説明があった。会議の日程については、第 35 回会議日時 2021 年 9 月は 2022 年 9 月に、第 37 回会議日時 2022 年 3 月末は 2023 年 3 月末に修正することが確認された。

2022 年度予算案については、資料 7 にそって鈴木会計担当委員より説明された。

2022年度活動計画案、2022年度予算案とも現状案として承認され、総会にはかることとなった。

(6) 第11回シンポジウムについて

杉山会長より、開催日程（5月22日（日）、6月11日（土）のいずれか）、発表学会、テーマ、サブタイトルについて検討中であることが報告され、それぞれについて構成学会からの意見を求めた。協議の結果、日程は5月22日（日）とし、17時から開催する総会の前に終了するようにスケジュールすることとなった。

発表は、出席の構成学会の中では、日本家庭科教育学会、日本消費者教育学会、日本調理科学会、日本保育学会が発表担当候補となり、加えて、杉山会長から本日欠席の構成学会にも打診することが確認された。

サブタイトルについては、「生活科学からみた課題と取組」とする案や、ここで厳密に決めるのではなく、担当する学会が話しやすいテーマにするのが良いという意見、小川委員から、担当学会に共通するテーマとして「教育」をサブタイトルとしてはどうかという意見等があった。

また、3回目となる12月のシンポジウムでは、1回目、2回目の議論を積み重ね、「生活科学からの提言」あるいは「生活科学の貢献」というような副題の内容にできたら良いという意見があり、会長からも、3回のシンポジウムのまとめになるようなシンポジウム形式も検討したいという発言があった。

発表担当候補の各学会には杉山会長から依頼メールを送り、本日の内容を検討して4月10日までに演者、タイトル案を出してもらうこととなった。

(7) その他

杉山会長より、公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」第三回「Disability Inclusive Academia：障害のある人々の視点は科学をどう変えるか」（資料9）、公開シンポジウム「中等教育からはじめよう！ジェンダー平等－誰一人取り残さない、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざして－」（資料10）の案内があった。

報告

(1) 構成学会からの活動報告

各構成学会より、2021年12月以降の学会活動について報告された。

(2) 家政学分科会からの活動報告

子育て支援WGは守随副委員長より、家庭科における免許外教科担任制度WGは杉山会長より、それぞれ活動が継続中であることが報告された。

以上